

## 2011年2月9日以降の火口の埋積過程

- 国土地理院撮影の2月9日と2月26日の写真を比べると火口は顕著に埋積されている。
- 主な埋積物は火口内の溶岩か火砕物かは定かでないが、この間顕著な噴火が数回しか無かったことを考慮すると、火口内の溶岩の上昇も関与している可能性がある。
- 火砕物ないし火口内溶岩によるものか判断するためには面的かつ詳細な地形データの所得が望まれる。



2011/02/09撮影 火口西縁内壁  
<http://www.gsi.go.jp/common/000058572.JPG>



2011/02/26撮影 火口西縁内壁  
<http://www.gsi.go.jp/common/000058866.jpg>



2011/03/04撮影 火口西縁内壁  
<http://www.gsi.go.jp/common/000058944.jpg>

国土地理院撮影の火口写真（トリミングしている）。火口西縁の内壁に注目すると2月9日と26日の間に顕著な埋積があったことがわかる。次ページに内壁部分の拡大写真を載せる。



2011/02/09 <http://www.gsi.go.jp/common/000058572.JPG>  
火口壁の溶岩とその上位の成層火砕岩がよく見える。



2011/02/26 <http://www.gsi.go.jp/common/000058866.jpg>  
火口壁の溶岩が埋積されその上位の成層火砕岩のみ観察される(オレンジ部分)。

### 溶岩増加量の見積もり

半径300mで厚さ20m増加の場合

$$300 \times 300 \times 3.14 \times 20 = 600 \text{万m}^3$$